

## 令和元年度森林吸収源インベントリ情報整備事業 全体説明会

開催日時:2019年5月14日(火)13:30～16:00

場所:森林総合研究所 大会議室

北海道支所、関西支所、四国支所、九州支所 (TV会議)

参加者(森林総研):平井、相澤、石塚、古澤、川西、酒井(寿)、小林、田中、森貞、橋本(昌)、今村、長倉、山田、真中、橋本(徹)、伊藤(江)、梅村、野口、森下、岡本、稲垣(昌)、稲垣(善)、志知、酒井(佳)、森

参加者(受託者):杉浦・川尻・菊池・澄川[(株)セ・プラン]、藏重・高野[(株)宮城環境保全研究所]、江田・池田[ソシオエンジニアリング(株)]、林[東京パワーテクノロジー(株)]、渡辺・北井[(株)一成]、内田・中園・上田・中川・[(株)九州自然環境研究所]、藤田・清水・小田倉・牧野・木島[クリタ分析センター(株)]

参加者(林野庁森林整備部森林利用課):河野、羽田

### スケジュール

13:30 開会

13:35～ 講義

- I 令和元年度実施計画
- II 事業実施に関する準備と実行
- III 野外調査方法
- IV 野帳および入力フォームの様式変更
- V 試料の調整と分析
- VI データの品質管理と成果の提出

15:20～ 全体質疑

15:30 閉会

### 概要

試料収集分析業務に関わる業者を対象に、調査方法、データ提出方法等、今年度のインベントリ事業の進め方を説明した。林野庁河野課長補佐の挨拶の後、林野庁羽田係長から個人情報の取り扱いの変更に関する説明があった。

続いて議題に沿って各項目の説明と質疑応答を行った。精度の高い調査を行うために野外調査、データ入力、試料調整・分析、データの品質管理と提出について重点的な注意事項を中心に説明した。昨年度は不実施理由の精査により調査実施率が向上したと考えられたが、位置図等の再提出を求めるケースがあったので、不実施の際に提出する写真や位置図等の情報について、具体例を示して説明した。野帳様式 A1 の備考欄に仮杭設定方法のチェック欄を追加したので、記入方法と電子ファイルの入力方法を説明した。円周杭が見つからないときの仮杭の設定方法に

ついて、森林生態系多様性基礎調査のマニュアルを紹介してプロット設定方法を解説し、仮杭の位置は同調査の野帳記載に従うよう説明した。また、森林生態系多様性基礎調査で大円の一部に非森林が含まれる場合の円周杭の設置方法が変更されたのに伴い、従来と異なる位置に杭が設置された場合の土壌炭素蓄積量調査位置の決定方法を説明した。その他、仮提出データの点検で注意が必要と考えられるライン対象外の判断やブロック採取時の採取範囲については、具体例を追加して説明した。

今年度も堆積有機物層と鉍質土層の境界判定を重点的に指導するので、現地講習会の候補地は、事前に送付した要注意地点リストを参考に、できるだけ境界判定の実習に適した地点を選定すること、要請があれば要注意地点の調査に講師が同行することを伝えた。

質疑応答では、風化礫の扱い、非森林の判断、仮杭設定方法を中心に質問があり、対応を回答した。講義と質疑応答を通して調査の要点と実施率向上のための取り組みが確認できたと考えられる。

## 記録写真

